ま　え　が　き

本集には、第 8 代校長ミス・ヒューズ著『JAPAN AND HER PEOPLE』と初代校長ミス・バーケンヘッド著「SUMA MURA FIFTY YEARS AGO」を取り上げた。

本学院創立百周年記念行事の一環としての『松蔭女子学院百年史』の出版を機縁として、有志による学院史料の整備が始められた。最初は、何をどのような手順で取り上げるべきか、学院内にどれほどの史料があるのかすら分からなかった。そこで、ともかく、本学院創立時に SPG の西日本地区の担当者であり、本学院創立の責任者となったフォス師のメモワールの翻刻を取り上げ(第一集)、次に、その日本語訳を取り上げた(第二集)。次いで、初代校長ミス・バーケンヘッドから第 8 代校長ミス・ヒューズまでの宣教師校長時代の英国在ロンドン本部との往復書簡を取り上げた(第三集～第七集)。

これは、まさに全松蔭をあげての有志活動であった。当時の松蔭中学校・高等学校の英語担当教員のすべてが分担して翻訳が始められた。それは、現職の教員に限らず、退職教員、生徒の保護者まで参加する一大計画となった。

その後、最後の SPG 派遣宣教師となったミス・リーの『戦中覚え書』(第八集)を取り上げた。

2008年、第八集の仕事をやり終えた時点で、一応の目的が達成されたとして有志委員は活動終了宣言を行なっていたのであるが、2015年、ミス・リーの遺した文書の翻刻・翻訳を目的として仕事を再開し、第九集を発行することとなった。第九集には、日本人初代校長浅野勇氏、その後を継がれた八代斌助師の業績を含む数々の記録的書簡等を収めた。

続いて、ミス・リーの著書『WINDOW ON JAPAN』を取り上げ、これを『私の愛した日本』として刊行した(第十集)。更に続いてこの度、第十一集と

して刊行することが出来た。望外の幸せである。

ただ、30年近く続いたこの有志委員会も、諸々の事情の故に、解散を再宣言をしたいと思うのであるが、近い将来、我々の時と同じように、どこからともなく有志の方々が声を挙げられて、地味ではあるが歴史的遺産を残す意義あるこの活動が続けられることを切望してやまない。

編纂者を代表して　黒 澤 一 晃